

山元町教育委員会に関する点検評価報告書

(平成 25 年度事業)

平成 26 年 9 月

山元町教育委員会

目 次

I	はじめに	
1	点検及び評価の趣旨	1
2	点検及び評価の対象	1
3	点検及び評価の実施方法	1
II	山元町教育委員会の活動の概要	1
1	教育基本方針	1
2	教育重点施策	2
(1)	学校教育の充実	2
(2)	社会教育の活動推進	2
(3)	地域文化の保護と活用	3
(4)	社会体育と生涯スポーツの振興	3
III	主な事業の点検評価項目	3
1	教育委員会の活動	3
2	教育関係経費決算の状況	6
3	学校教育の充実	7
(1)	山元町立山下第二小学校の再建に向けて	7
(2)	小学校及び中学校各項目評価について	8
(3)	学校給食の概要について	2 8
4	生涯学習の推進	
(1)	生涯学習の充実	2 8
(2)	生涯スポーツの推進	3 5
(3)	魅力ある地域文化の醸成	3 6
(4)	社会教育・社会体育施設の活用	3 9
IV	東日本大震災に伴う施設被害及び復旧状況等	4 0
V	点検評価に対する学識経験者の意見	4 2
VI	参考法令	4 4

山元町教育委員会に関する点検評価報告書

I はじめに

1 点検及び評価の趣旨

山元町教育委員会では、教育行政事務の管理及び執行状況について点検及び評価を行い、事務事業の目的、目標、成果を明らかにし、目的妥当性、有効性、効率性の観点から評価を行うことで業務改善を進めることを目的とします。

また、「山元町教育委員会に関する点検評価報告書」を作成し、町議会へ提出し、併せて住民へ公表することで、より開かれた教育行政を推進します。

2 点検及び評価の対象

平成 25 年度の山元町教育委員会が所管する事業及び東日本大震災により取り組んだ事業を対象とします。

3 点検及び評価の実施方法

点検及び評価については、平成 25 年度の山元町教育委員会が所管する事業の取り組み状況を総括するとともに、そこでの課題や、今後の方向性を示しつつ、学識経験者の意見を付したうえで取りまとめを行うものとします。

なお、実施にあたっては、山元町教育委員会において点検及び評価を行った後、その結果を取りまとめた報告書を毎年山元町議会へ提出し、かつ公表するものとします。

II 山元町教育委員会の活動の概要

1 教育基本方針

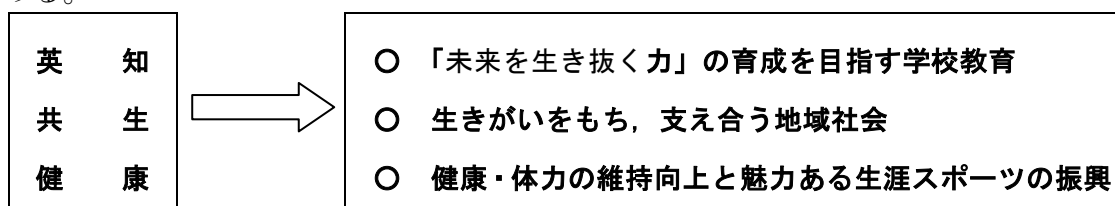
平成 25 年度における山元町の学校教育・社会教育の原点は、先の東日本大震災の被災状況を踏まえ、現在進めている「山元町震災復興計画」（第 5 次山元町総合計画）に沿った課題解決を最優先に据えて、学校、家庭、地域、そして教育委員会の総力を挙げて取り組むこととする。

学校運営については、津波で被災した学校の統合及び併設の継続に加え、未だ仮設住宅や学区外、他市町から通学する児童生徒が多数いることから、児童生徒や保護者の心理的・経済的な負担等にも配慮しながら教育活動を展開していくものとする。さらに、あの震災では、学校や児童生徒と地域との繋がりがいかに重要であるかを改めて問われたことから、より一層学校と地域との協働を推進する。

また、社会教育については、多様な生涯学習、文化、スポーツ・交流活動に対し積極的に支援するとともに、地域づくりの活動リーダーの育成を図る。

以上のような考えを基に、基本方針等は下記のとおりとする。

山元町の豊かな自然と風土の中で、家庭及び地域の教育力を生かし、心豊かでたくましい人間形成をめざすとともに町民の生涯にわたる学習の充実に努める。



を教育基本方針とし、その具現化に努める。

2 教育重点施策

学校教育と社会教育が連携・協働して教育基盤の再構築を図り、町民一人一人が自己実現をめざし、健康で生きがいに満ちた生涯学習社会を実現するために、次の施策を行う。

(1) 学校教育の充実

- ① 未来を生き抜く力を育む創意ある教育課程の編成・実施・評価
 - ・基礎的な学力の定着と活用する力の伸長及び個性を伸ばす主体的・体験的学習の展開
 - ・震災経験を生かした志教育・心の教育の推進
 - ・健康の保持増進のための基礎体力の向上及び食育の推進
 - ・地域と連携した防災教育の推進
 - ・一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実
 - ・伝統文化の尊重と国際理解教育の推進
- ② 創意と活力に満ちた学校経営と信頼される教職員
 - ・児童生徒の夢や希望の実現を目指す特色ある学校経営の推進
 - ・学校評価等を生かした、家庭・地域に開かれた学校づくりの推進
 - ・教職員としての使命と責任の自覚及び資質向上を目指した研修の充実
- ③ 学習環境の復旧・支援体制の強化
 - ・校舎、屋内運動場、プール等の施設・設備等の復旧と整備充実
 - ・地域防災の視点に立った危機管理体制の整備と安心・安全な学校づくりの推進
 - ・心のケアへのきめ細かな配慮及びいじめや不登校のない学校・学級づくり
 - ・主体的な進路選択の指導
 - ・児童生徒の健全育成に係わる関係機関との連携

(2) 社会教育の活動推進

歴史と伝統ある地域の特性を生かした町民の生涯にわたる学習を推進し、復興機運の醸成を図る。

① 青少年の健全育成の推進

- ②社会教育施設・設備の適正な維持管理と効率的活用
- ③協働教育事業の充実と社会参加の奨励
- ④学習意欲の高揚と学習活動への支援
- ⑤コミュニティ意識の醸成と地域づくりへの支援

(3) 地域文化の保護と活用

かおり高い芸術文化とのふれあいと創造を図るため、歴史が培ってきた芸術文化を尊重し、文化財の保護と活用に努め、次世代への継承支援を図る。

- ①芸術文化活動への理解と啓発促進
- ②参加し創造する芸術文化活動の支援
- ③文化財の保存と史跡の環境整備の促進
- ④復興事業等に伴う埋蔵文化財の発掘保存
- ⑤郷土の伝統文化の保護と後継者育成の支援

(4) 社会体育と生涯スポーツの振興

町民の主体的スポーツ活動を支え、活力ある地域社会を目指し生涯スポーツの振興に努める。

- ①社会体育施設・設備の適正な維持管理と効率的活用
- ②町民総参加による生涯スポーツの振興
- ③社会体育関係団体の組織活動の活性化
- ④スポーツ指導者の育成と体制の整備

Ⅲ 主な事業の点検評価項目

1 教育委員会の活動

山元町教育委員会は、山元町長が町議会の同意を得て任命した5人の委員により組織される合議制の執行機関であり、その権限に属する教育に関する事務を管理執行しています。教育委員会には教育長が置かれ、教育委員会の指揮監督のもとにその事務を執行します。

教育委員会の会議は、毎月下旬に定例会を開催し（必要に応じて臨時会を開催します。）、各種議案の審議がなされるほか、教育長報告として各課の行事予定や実績報告等を行います。

また、小・中学校や社会教育施設の実情等を把握するとともに、学校経営・授業等に対し指導助言を行うため、学校や社会教育施設を訪問しています。

なお、この訪問の際には、教育委員が学校給食を実際に学級の中で児童生徒とともに食しながら教職員との意見交換の場を設けるなどして、指導・助言を行います。

(1) 教育委員会委員

職名	氏名	任期
委員長	高橋 建夫	平成22年10月1日～平成26年9月30日
職務代行者	島田 さゆり	平成21年7月1日～平成29年6月30日
委員	大内 悦夫	平成24年4月1日～平成28年3月31日
委員	荻原 美智絵	平成25年10月1日～平成29年9月30日
教育長	森 憲一	平成22年5月17日～平成28年9月30日

(2) 定例会の開催について

※主な審議事項を掲載

区分	期日	付議事件等
第1回定例会	平成25年4月24日	① 平成25年度臨時職員（教育委員会関係）の採用について ② 山元町奨学金貸与選考委員会委員の委嘱について ③ 山元町障害児就学指導審議会委員の委嘱について ④ 山元町学校給食運営審議会委員の委嘱について ⑤ 山元町いじめ問題対策委員会委員の委嘱について ⑥ 山元町社会教育委員の委嘱について
第2回定例会	平成25年5月27日	① 山元町教育委員会副班長設置要綱について ② 教育功績者表彰規程の一部を改正する訓令について ③ 山元町社会教育指導委員の委嘱について ④ 平成25年度6月補正について
第3回定例会	平成25年6月25日	① 第2回山元町議会定例会（抜粋）について ② 山元町社会教育委員の会議の報告について ③ 山元町立学校評議員の委嘱について ④ 亘理郡中総体の結果について
第4回定例会	平成25年7月25日	① 奨学金の償還事務の状況について ② 教育功績者表彰規程に基づく表彰者について ③ 平成26年度使用教科用図書採択承認について ④ 平成25年7月臨時議会について
第5回定例会	平成25年8月26日	① 第1回文化財保護委員会の会議報告について ② 山元町教育委員会に関する点検評価報告書について

		③ 町職員人事（給食従事員）について ④ 平成 25 年度 9 月補正について
第 6 回定例会	平成 25 年 9 月 25 日	① 教育委員会委員の任命について ② 第 3 回山元町議会定例会（抜粋）について ③ 指定文化財によらない石碑等の取扱い関する規程について ④ 平成 25 年度宮城県 P T A 指導者仙台地区研修会・協働教育研修会について
第 7 回定例会	平成 25 年 10 月 25 日	① 臨時職員（教育委員会関係）の採用について
第 8 回定例会	平成 25 年 11 月 26 日	① 山元町障害児就学指導審議会の会議報告について ② 山元町議会産建教育常任委員会所管事務調査等について ③ 仙台管内教育委員会協議会委員長部会研修会について ④ 平成 25 年度 12 月補正について ⑤ 町民文化祭実施状況について
第 9 回定例会	平成 25 年 12 月 25 日	① 第 4 回山元町議会定例会（抜粋）について ② 所管事務の調査報告書及び定期監査の結果について
第 10 回定例会	平成 26 年 1 月 27 日	① 山下第二小学校の再建説明会について
第 11 回定例会	平成 26 年 2 月 19 日	① 県費負担教職員の人事について ② 平成 26 年度 教育関係当初予算案に対する意見聴取について ③ 平成 26 年度 山元町教育基本方針について ④ 平成 25 年度 3 月補正予算（案）について
第 12 回定例会	平成 26 年 3 月 20 日	① 平成 26 年第 1 回山元町議会定例会について ② 山元町立学校給食運営審議会の会議報告について ③ 山元町いじめ問題対策委員会の会議報告について ④ 山元町教育相談員の委嘱について ⑤ 県費教職員・町費教育委員会関係の人事について ⑥ 学校給食費の改定について ⑦ 山元町文化財保護委員の委嘱について ⑧ 山元町立学校の児童生徒に係る出席停止の命令手続に関する要綱について ⑨ 山元町児童生徒就学援助実施要綱の一部を改正する告示について ⑩ 山元町社会教育指導員の委嘱について ⑪ 第 3 回文化財保護委員会の会議報告につい

		て ⑫ 第3回社会教育委員の会議報告について ⑬ 教育員会定例会の持ち方について
--	--	--

(3) 臨時会の開催について

第1回臨時会	平成25年5月23日	① 職員の懲戒処分に関し議決を求めることについて
--------	------------	--------------------------

2 教育関係経費決算の状況

平成25年度決算額は、教育費8億390万7千円、前年度比42.7パーセントの増加でした。

主な増加理由としては、小学校費坂元小学校プール、体育館建築事業皆増等によるものです。

なお、東日本大震災の影響による災害復旧費、文教施設決算額は1億1,968万3千円です。

○目的別決算の状況

(単位：千円)

区 分	平成25年度		平成24年度		増減額	増減率
	決算額 (千円)	構成比 (%)	決算額 (千円)	構成比 (%)		
教育総務費	68,859	8.6	75,257	13.4	△ 6,398	△ 8.5
小学校費	444,826	55.3	150,259	26.7	294,567	196.0
中学校費	123,164	15.3	135,066	24.0	△ 11,902	△ 8.8
幼稚園費	9,026	1.1	9,707	1.7	△ 681	△ 7.0
社会教育費	145,930	18.2	186,823	33.2	△ 40,893	△ 21.9
保健体育費	12,102	1.5	6,129	1.0	5,973	97.5
教育費 計	803,907	100.0	563,241	100.0	240,666	42.7
文教施設災害復旧費	119,683		118,038		1,645	1.4
教育関係経費 合計	923,590		681,279		242,311	35.6

○性質別決算の状況

(単位：千円)

区 分	平成25年度		平成24年度		増減額	増減率
	決算額 (千円)	構成比 (%)	決算額 (千円)	構成比 (%)		
人件費	156,507	19.5	178,367	31.7	△ 21,860	△ 12.3
物件費	218,512	27.2	228,599	40.6	△ 10,087	△ 4.4
維持補修費	21,735	2.7	5,419	1.0	16,316	301.1
扶助費	29,369	3.6	31,151	5.5	△ 1,782	△ 5.7
補助費等	18,355	2.3	25,770	4.6	△ 7,415	△ 28.8
普通建設事業費	352,965	43.9	88,568	15.6	264,397	298.5

積立金	5,744	0.7	4,287	0.8	1,457	34.0
貸付金	720	0.1	1,080	0.2	△ 360	△ 33.3
教育費 計	803,907	100.0	563,241	100.0	240,666	42.7
文教施設災害復旧費	119,683		118,038		1,645	1.4
教育関係経費 合計	923,590		681,279		242,311	35.6

*遠距離通学に伴う通学費補助

(単位：円)

学校名	【平成 23 年度】			【平成 24 年度】			【平成 25 年度】		
	世帯	人数	金額	世帯	人数	金額	世帯	人数	金額
坂元小学校	3	3	39,525	1	1	49,105	2	2	114,606
中浜小学校	6	9	57,351	3	3	152,895	—	—	—
山下小学校	3	4	15,320	3	3	121,700	1	1	88,830
山下第一小学校	13	18	280,365	4	5	74,082	2	2	18,305
山下第二小学校	46	57	651,033	7	8	140,741	4	7	59,958
坂元中学校	14	15	342,719	5	5	209,122	3	3	52,211
山下中学校	41	42	910,796	13	15	483,716	6	6	239,203
合 計	126	148	2,297,109	36	40	1,231,361	18	21	573,113

3 学校教育の充実

(1) 山元町立山下第二小学校の再建に向けて

東日本大震災で被災し、山下小学校と併設を続けている山下第二小学校は、教育委員会が平成25年3月に策定した山元町小・中学校教育環境整備方針では、新山下駅周辺地区新市街地の一角に再建する考えが示されていました。

このことから、町として正式に山下第二小学校の再建を進めるため、第4回議会定例会において、用地取得・造成及び建築設計に向けた予算を提案したところ、学校の再建場所の選定理由等についてのご質問等多数いただきましたが、最終的にはご可決いただき、山下第二小学校の再建が進められることになりました。

学校の再建場所については、8月末に開催した再建計画説明会、及び11月に開催した都市計画変更説明会における新山下駅周辺地区土地利用計画変更の中でお示ししてきたとおりですが、その場所を選定した理由は次のとおりです。

【教育的観点】

- ①児童の安全安心を最大限に優先するため、災害危険区域への再建は適当でないこと。
- ②新山下駅周辺地区新市街地は、被災された山下第二小学校の学区民の方々が生活再建を図られる地区であって、津波からの安全が確保された形で造成が進め

られること。

- ③旧山下駅西側等に現地再建された方々との連担を考えたとき、少しでも新市街地の北東部寄りとの配慮が必要であったこと。
- ④新市街地は、山下小学校学区の中に整備されることになるが、新たに整備される新市街地は、山下第二小学校の学区に限定する考えであること。

(2) 小学校及び中学校各項目の評価の観点について

- ①学校教育目標・・・〈知〉〈徳〉〈体〉
- ②学力向上・・・基礎学力の定着、活用する力の伸長、主体的・体験的学習の展開
- ③心の教育・・・心のケアを含む心の教育、志教育の推進
- ④体力・生活習慣・・・体力向上に向けた取組、基本的生活習慣の育成
- ⑤防 災・・・地域防災の視点に立つ危機管理体制、大震災の経験を生かした防災教育
- ⑥いじめ不登校・・・いじめ防止対策、不登校対策
- ⑦地域連携・・・開かれた学校づくり、説明責任の状況
- ⑧資質向上・・・現職教育、校内研究など
- ⑨特色ある教育活動・・・各校独自の教育活動等

〈評 価〉

A：十分である B：おおむね十分である C：やや不十分である D：不十分である

No.	項目	評価	主な具体的対策	成果と課題 ○：成果 ▲：課題
学校教育目標	〈知〉 進んで学習する子ども	A・ B ・C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・「家庭学習のすすめ」の配付と活用 ・学年に応じた自主学習の推奨 ・複数指導体制による学習指導 	<ul style="list-style-type: none"> ○複数指導の有効活用によって、個に応じた指導が行き届いている。 ▲学習意欲の低下と学力の定着度の低さ
	〈徳〉 明るく思いやりのある子ども	A・ B ・C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・たてわり活動による異年齢集団の形成と高学年主導による協働体験 ・支援に対する礼状作成 	<ul style="list-style-type: none"> ○たてわり活動の充実により異年齢間の仲が良い。 ▲震災の影響から活動範囲や条件に制限がある
	〈体〉 根気強くがんばる子ども	A・ B ・C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・縄跳びタイムの設定及び縄跳びカードの活用 ・家族の日による「早寝・早起き・朝ごはん」の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○縄跳びタイムの定着による運動意識の高まりが見られた。 ○親子対話を意識付けられた。
学力向上	基礎学力の定着	A・B・ C ・D	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数指導体制と副担任による個別指導 ・朝自習時間のドリルやプリントによる反復学習 	<ul style="list-style-type: none"> ▲複数指導の成果はあるが、テスト等の結果に必ずしも結び付いていない。 ▲家庭での定着・充実が課題
	活用する力の伸長	A・ B ・C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・応用問題や発展問題等の内容の精選と工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ○副担任制を生かして、学習に発展性をもたせることができた。 ○習熟の時間を確保して自分に合った学びができた。
	主体的・体験的学習の展開	A ・B・C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル黒板等ICTの活用による視覚的な授業づくり ・外部機関との連携（公民館、支援団体） 	<ul style="list-style-type: none"> ○デジタル黒板を活用し、ICTのよさを生かした授業の展開ができた。
心の教育	心のケアを含む 心の教育	A・ B ・C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・週1回朝読書タイムの設定 ・週1回のスクールカウンセラーの活用 ・芸術鑑賞体験の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○スクールカウンセラーが児童としっかりレポートをとって、見取りを進めることができた。
	志教育の推進	A・B・ C ・D	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事、総合的な学習と関連付けた目標設定と振り返り ・係活動、清掃活動の充実と協同意識 	<ul style="list-style-type: none"> ▲ねらいに沿って指導を進めているが、振り返りなど、次につなげる活動が不足している。
体力・生活習慣	体力向上に向けた取組	A ・B・C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・全校縄跳び運動の推進 ・教科体育における基本の運動の定着 ・外遊びの奨励 	<ul style="list-style-type: none"> ○体育文化センターを使用しての体育の授業が確保され、予想以上に運動能力の向上が見られた。

	基本的な生活習慣の育成	A・ B ・C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・月ごとの生活目標設定及び到達度評価と反省 ・家族の日カードの活用による家庭で過ごす時間の充実と健康的な生活の定着 ・登下校時の挨拶の励行 ・朝の街頭指導による登校支援 	<ul style="list-style-type: none"> ○学年に応じた挨拶が身に付いている。 ▲遅刻傾向が目立つ児童がおり、児童の生活リズムの見直しとともに保護者への啓発が求められる。
防災	地域防災の視点に立つ危機管理体制	A ・B・C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・引き渡し訓練の実施、防災マニュアル策定 ・地域安全協力隊の再結成 ・定期的テストメール配信、防災便りの発行 	<ul style="list-style-type: none"> ○協力隊の結成により、地域との結びつきが深くなった。 ○メール配信の効果が高かった。
	大震災の経験を生かした防災教育	A・ B ・C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練時の安全確保を目的とした防災教育 ・二次三次避難場所の設定 	<ul style="list-style-type: none"> ○地震に対する児童の初期行動の定着がよい。
いじめ不登校	いじめ防止対策	A ・B・C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な生活アンケートの実施 ・週1回の職員情報交換 ・Q-U検査の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○Q-Uテストや生活アンケートの結果を分析し、積極的な生徒指導に生かすことができた。
	不登校対策	A ・B・C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な生活アンケートの実施 ・アンケート結果の考察と面談 ・週1回の職員情報交換 ・ケース会議の開催と保護者との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭と密に連携し、不登校傾向を改善にすることができた。 ○30日以上欠席 1名
地域連携	開かれた学校づくり	A ・B・C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・フリー参観週間の開催 ・年5回の授業参観の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○懇談会等への参加率は80%を超え情報の共有ができています。
	説明責任の状況	A ・B・C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観時の臨時全体保護者会の実施 ・学校便りの定期的発行 	<ul style="list-style-type: none"> ○工事やお願い事が生じた場合、学校から即時、文書等で連絡・報告をすることができた。
資質向上	現職教育	A・ B ・C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・算数科を中心とした授業研究 ・研修会の実技伝講会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○検討会の形式をワークショップ形式にした事で、積極的に意見を述べ合う研修となった。
	各種研修会への参加	A ・B・C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・専門性に合わせた研修会への参加 ・先進的教育活動の視察研修の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○どの職員も自分の資質向上を目指し、積極的に専門性に合った研修に参加することができた。
特色ある教育活動	体験活動を通じた地域とのふれあい	A ・B・C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・地場産品（りんご・いちご）農家と連携した体験活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ▲地元農家の高齢化等により講師の後継者の開拓が求められている。
	伝統芸能の継承とたてわり活動	A ・B・C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・神楽の再生及び地域指導者との連携 ・おけさの継承と地域発表 ・月1回のたてわり活動及びたてわり運動会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○統合後、新たな伝統として、「かぐら」「おけさ」が定着し、今後の方向性を定める事ができた。

自己目標に向けた継続的な努力の推奨	Ⓐ・B・C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・年3回の漢字能力検定の実施 ・縄跳び運動の上達級設定 	<ul style="list-style-type: none"> ○漢検への参加者が増加し、取組として定着している。 ○縄跳びの級を意識した向上心が高まった。
-------------------	---------	--	---

— 山下小学校 —

No.	項目	評価	主な具体的対策	成果と課題 ○：成果 ▲：課題
学校教育目標	〈知〉 しっかり勉強する子ども	AⒶ・C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・指導形態や指導法の工夫 ・スキル学習や家庭学習の励行 	<ul style="list-style-type: none"> ○小集団での学習の定着 ○家庭学習への取り組みの向上 ▲学年による取り組みの差
	〈徳〉 やりとおす子ども まごころのある子ども	AⒶ・C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・児童によるあいさつ運動の実施 ・縦割り活動を通した心の教育 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の自主的な取り組みによる挨拶の向上 ○縦割り活動の定着 ▲校外でも挨拶ができる児童の育成
	〈体〉 たくましい子ども	AⒶ・C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・体育の授業・体育的行事・外遊び等での運動量の確保 ・体力向上カードの活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○持久走大会への集中した取り組み ○積極的に外遊びをする児童の増加 ▲運動を日常化するための更なる働きかけ
学力向上	基礎学力の定着	AⒶ・C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・スキル学習の定期的な実施 ・家庭学習の推奨 	<ul style="list-style-type: none"> ○スキル学習の時間の確保による理解度の向上 ○家庭での学習時間の向上 ▲スキル学習の時間の更なる確保
	活用する力の伸長	AⒶ・C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な時間の指導を通した活用力の育成 ・ノート指導を通した、既習事項を活用する能力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ○総合学習を通した発信など活用力の向上 ○丁寧で活用しやすいノート作成力の向上 ▲児童の実態に即した指導計画の作成
	主体的・体験的学習の展開	AⒶ・C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・小集団学習を活用した主体的な学習 ・地域の環境を生かした体験学習の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○小集団学習を通した発言意欲の向上 ○体験学習による児童の意欲の向上 ▲体験学習の時間の確保
心の教育	心のケアを含む 心の教育	AⒶ・C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラーの活用 ・必要に応じたケース会議の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ○ケース会議による適切で迅速な対応の実現 ○スクールカウンセラーの活用による児童の精神面のケアの実現 ▲保護者へのスクールカウンセラーの活用の周知
	志教育の推進	AⒶ・C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の作成と加筆 ・実践事例の蓄積と紹介 	<ul style="list-style-type: none"> ○指導計画の活用による指導の充実 ○指導者の意識の改善 ▲地域に即した実践の集積

体力・生活習慣	体力向上に向けた取組	AⒶ・B・C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・体育・外遊び等での運動量の確保 ・体力向上カードの活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○外で活動する児童の増加 ○カードを通じた活動意欲の向上 ▲体力向上の数値的な把握
	基本的な生活習慣の育成	A・BⒸ・C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態に応じた生活目標の設定 ・各学年の実態に応じた指導計画の策定と指導の実施 ・全校児童に対する定期的な指導の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○朝会等での適切な生活目標の提示 ○生活目標の適切な提示による意欲的な取り組みの実現 ▲月ごとの目標だけでない、継続した取り組みの必要性 ▲全職員で共通理解し、指導の強化を図る必要性
防災	地域防災の視点に立つ危機管理体制	Ⓐ・B・C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・山下二小と連携した危機管理マニュアルの改善 ・災害時を想定した訓練の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○マニュアルの整備と共通理解の徹底 ○集団下校訓練や引き渡し訓練等の実施 ▲地域と連携した体制の整備
	大震災の経験を生かした防災教育	AⒶ・B・C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・山下二小との共同防災訓練の実施 ・安全集会等を通じた防災意欲の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ○共同防災訓練を通じた共通理解の徹底 ▲防災教育の更なる徹底
いじめ不登校	いじめ防止対策	Ⓐ・B・C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ実態調査の毎月の実施 ・実態調査を通じた早期の発見と対応 ・いじめに関する情報の共有化 	<ul style="list-style-type: none"> ○定期的な調査による実態把握の実現 ○情報の共有による取り組みの徹底 ▲調査の蓄積による児童実態の更に深い把握
	不登校対策	Ⓐ・B・C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・児童実態の情報の共有 ・ケース会議の開催を通じた早期対応 	<ul style="list-style-type: none"> ○情報の共有による取り組みの徹底 ▲更なる迅速な取り組みの必要性
地域連携	開かれた学校づくり	Ⓐ・B・C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観やみやまフェスティバルなど学校行事等の地区への公開 ・学校だよりの地区への回覧、及びホームページやメールによる情報の提供 	<ul style="list-style-type: none"> ○メールでの迅速な情報提供 ▲ホームページの更新
	説明責任の状況	Ⓐ・B・C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営方針や学校評価の公表 ・サポート委員会での学校経営の状況の説明 	<ul style="list-style-type: none"> ○情報公開による地域からの理解の深まりと支援の増加 ▲更なる情報の発信の必要性
資質向上	現職教育	AⒶ・B・C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・校内共同研究の推進 ・実技研修の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○共同研究による職員の資質の向上 ○職員の意欲の向上 ▲事前検討や準備の時間の確保
	外部研修	Ⓐ・B・C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・公開研究会等への積極的な参加 ・研修内容を共有化するための伝講会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○外部研修による資質の向上 ○伝講会による情報の共有化 ▲研修に行く時期の調整
教育活動 特色ある	指導形態の工夫	Ⓐ・B・C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数担当教員による授業の実施 ・小集団学習の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○少人数指導担当による事前準備の徹底 ○TT指導による個別対応の実現 ▲TTと少人数指導のバランス
	縦割り活動	Ⓐ・B・C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間を通じた縦割りグループによる異学年児童との活動 	<ul style="list-style-type: none"> ○学級を超えた児童の活動意欲の向上 ○児童同士の交流による思いやりの心の成

			・活動を通じた高学年児童の育成	長 ▲事前準備の時間の確保
	地域素材や人材の活用	Ⓐ・B・C・D	・プラットフォーム事業を通じた学習支援ボランティアの活用 ・総合的な学習の時間での素材の開発	○学習支援ボランティアの補助による安全な活動の実現 ▲素材の更なる開発

— 山下第一小学校 —

No.	項目	評価	主な具体的対策	成果と課題 ○：成果 ▲：課題
学校教育目標	〈知〉 ・自ら課題を発見し、多様な見方、考え方で追求する子ども ・自己の思いや考えを自分なりに表現できる子ども	A・Ⓐ・C・D	・朝の会、帰りの会でのスピーチ	○自分で考えたことを順序立てて話せるようになった。 ▲自分なりに考えてみようとする態度をさらに伸ばしたい。
	〈徳〉 ・思いやりの心を持ち、お互いに助け合う子ども ・進んで働き、自分や友達を大切にしている子ども	A・Ⓐ・C・D	・縦割り活動 ・挨拶	○高学年が低学年への思いやりの心が高まった。 ○外部の方にもしっかりと挨拶ができた。 ▲困っている子などへより積極的に手を差し伸べたり、声を掛けたりできるようにしたい。
	〈体〉 ・明るく健康で、進んで心身を鍛える子ども ・めあてに向かって粘り強く取り組む子ども	A・Ⓐ・C・D	・外遊びへの声かけ ・体育委員会のイベント ・持久走記録会に変更	○進んで外遊びをするようになった。 ○全校で楽しく遊ぶことができた。 ○自分の目的を持って意欲的に取り組めた。 ▲さらに健康な心身を目指し、病気やむし歯の予防等に取り組んでいきたい。
	基礎学力の定着	A・Ⓐ・C・D	・朝の読書 ・朝のスキルタイム（算数）	○集中して本を読むようになった。 ○自分の能力にあった問題を復習でき

学力向上			<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の充実 ・読み聞かせボランティア ・TTの指導及び一部教科担任制の導入 	<p>た。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○物語に興味をもち本をたくさん読むようになった。 ○きめ細かい指導及び専門的な指導ができた。 ▲文章の内容をより確かに読み取ることができるようにしたい。 ▲四則計算をより速く正確にできるようにしたい。
	活用する力の伸長	A・ B ・C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・教室内の掲示物，学習カードの工夫 ・読み聞かせボランティア ・夏季・冬季休業中の学習会 ・総合的な学習の時間等での発表の取り組み ・学力テストの実施 *支援団体との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ○既習事項を振り返ることができた。 ○本のおもしろさを知ることができた。 ○進んで学習に取り組むようになった。 ○自分で調べ，まとめ方を工夫し，思ったこと感じたことを発表できた。 ○学習への取り組み方を再確認できた。 ▲求められている答えを導くために必要な資料や条件などを見極め，それらを正しく有効に活用することができるようにしたい。
	主体的・体験的学習の展開	A・ B ・C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間，生活科，特別活動 	<ul style="list-style-type: none"> ○校外学習で実際に見学体験する事により興味関心をもった。 ▲課題意識をさらに強くもって体験的な学習等に臨めるようにしたい。
心の教育	心のケアを含む 心の教育	A・ B ・C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育の充実 ・縦割り活動（業間遊び，清掃，カレンダー作り，遠足） ・カウンセラーや総合教育センターとの連携 	<ul style="list-style-type: none"> ○低学年に対する思いやりの心が育った。 ○地域にカレンダーを配布することにより一人暮らしの方へ対する思いやりの心が育った。 ▲さらに道徳教育の充実に努め，規範

				意識や他を尊重する心情等の醸成を一層図っていききたい。
	志教育の推進	A (B) C・D	<ul style="list-style-type: none"> 各教科へのリンク 公開研究会の参加 	<p>○各教育活動における取り組みにより重点目標に近づいている。</p> <p>▲どの教科や単元等で、どのように取り組むのかをさらに明確にしていきたい。</p>
体力・生活習慣	体力向上に向けた取組	A (B) C・D	<ul style="list-style-type: none"> 学習カードの活用（水泳、持久走、縄跳び） 一単位の時間の充実 	<p>○目標をもって取り組んでおり、向上しつつある。</p> <p>○宮城元気アップ体操の使用によって楽しく準備運動や補強運動ができた。</p> <p>▲限られた児童だけでなく、全児童が外遊びを行う日や時間を設けるなどして一層の体力向上を図りたい。</p>
	基本的な生活習慣の育成	A (B) C・D	<ul style="list-style-type: none"> 朝の挨拶の励行 早寝、早起き、朝ご飯の勧め 食育授業 ノーチャイム、5分前行動の励行 	<p>○地域の方々への挨拶が多くなった。</p> <p>○自分の体の調子について知ることができた。</p> <p>○主体的に行動することができた。</p> <p>▲さらに「自分から先に」挨拶ができるようにしたい。</p>
防災	地域防災の視点に立つ危機管理体制	A (B) C・D	<ul style="list-style-type: none"> 区長、民生児童委員の方との連携 合同避難訓練 	▲合同避難訓練の実施は難しいが、万が一の際の避難者の受け入れ方等についてさらに訓練していきたい。
	大震災の経験を生かした防災教育	A (B) C・D	<ul style="list-style-type: none"> 校内研究での防災教育 不審者、引き取り訓練などの実施 毎月防犯ブザー点検 	<p>○避難経路や指示などをよく聞き行動がとれるようになった。</p> <p>○どんな場所でも、地震など災害があった時、自分で考え行動ができるようになった。</p> <p>▲集中豪雨、雷等から自分自身で考え</p>

				て安全確保ができるよう、集中豪雨等の危険について体系的に指導できるようにしたい。
いじめ不登校	いじめ防止対策	A (B) C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもを語る会（生徒指導会議） ・Q・U（学級満足度等調査） ・いじめ調査 ・学校いじめ防止基本方針の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ○全教員で共通理解できた。 ○学級内での交友関係を調査できた。 ○把握と対応を迅速にできた。 ○新たに作成し組織を作ることができた。 <p>▲「学校いじめ防止基本方針」等の共通理解や早期発見、予防等の研修を実施できるようにしたい。</p>
	不登校対策	A (B) C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・カウンセラーとの面談 ・Q・U（学級満足度等調査）のアンケート実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○カウンセラーとの面談により相談ができた。 ○分析結果で迅速に対応できた。 <p>▲今後も不登校児童を出さないような楽しく充実した学校生活を送らせるための学習指導等の工夫や家庭との連携を密にすること等に一層力を注ぎたい。</p>
地域連携	開かれた学校づくり	A (B) C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・一日授業参観，祖父母参観，学年 PTA 行事，お祭り集会 ・区長との懇談会や民生児童委員等関係機関との連携 ・放課後児童クラブ，スポーツ少年団との連携 ・中学校，幼稚園，保育所との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校へ来ていただく機会を多くし学校の雰囲気を知ってもらう事ができた。 ○児童の現状の様子を聞くことができた。 ○体育館の活用ができた。 <p>○連絡の機会を設定することにより細かく引き継げた。</p> <p>▲いつでも学校に来て，児童の様子等</p>

				を見ていただいて、よいことを広報するなどにより敷居を低くする努力をする。
	説明責任の状況	A・ B ・C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価の計画実施の公表 ・HP, 学校便り 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校評価アンケートと児童アンケートを取りまとめて公表した。 ○学校の様子を知らせることができた。 ▲保護者には説明する機会が多いが、地域への説明の機会が少ない。学校だよりでの説明責任の意識をより強くもちたい。
資質向上	現職教育	A・ B ・C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上サポートプログラム ・宮城教育大学と連携した専門研究実施 ・外部講師の招聘 	<ul style="list-style-type: none"> ○アドバイスと改善点を参考に、より使いやすいワークシート工夫ができた。 ○児童理解と心のケアができた。 ▲校内研究の一層の充実を図る。教職員が授業を見合い検討する機会を増やす。 ▲他の地域・学校の指導法に学ぶ。
特色ある教育活動	安全で美しい環境作り	A・ B ・C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・農園での勤労体験, 掲示教育や美化 ・栽培物や校舎内外における放射能測定 季節感あふれる花壇経営と掲示物の工夫 ・ボランティアによる校内の掲示物 ・緊急時に即応できるような掲示の工夫 ・学習資料等の整理保管 	<ul style="list-style-type: none"> ○農園ボランティアの協力により作物は豊作だった。 ○季節に応じた花壇経営や掲示をすることができた。 ○災害時の対応を啓発する掲示物を掲示できた。 ○資料室の本棚設置により, 整理整頓ができた。 ▲修繕費等の確保により, 安全点検結果への迅速な対応ができるよう教育委員会との連携を密にする。

	P T Aとの連携	A・ B ・C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急メール配信有効性周知と全戸加入に向けての働きかけ 	<p>○全戸加入によりメールでの知らせができた。</p> <p>▲P T A会員の減少に伴う組織や事業の見直しを図る</p>
	その他	A・ B ・C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・学校便りの地区回覧やホームページ ・月一回家庭，地域安全の日を設定 ・英語活動を1年生から実施 	<p>○定期的に出している学校便りや毎回更新するH Pで学校の様子を知らせることができた。</p> <p>○毎月防犯ブザーの点検をした。</p> <p>○低学年から英語があり、親しむことができた。</p> <p>▲児童数減少による鼓笛隊の維持・継続への努力が一層必要である。</p>

No.	項目	評価	主な具体的対策	成果と課題 ○：成果 ▲：課題
学校教育目標	〈知〉 瞳輝きかしこく	Ⓐ・B・C・D	<ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本の定着による学習意欲の向上と「分かる授業」の創造 教師一人一人の指導力の向上 	○校内研究を中心とした研修で指導力の向上が図られ、児童の学習意欲が高まった。
	〈徳〉 心輝きやさしく	Ⓐ・B・C・D	<ul style="list-style-type: none"> 心のケアのための教育相談の充実 縦割り活動を生かした異年齢集団での体験活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○スクールカウンセラーを活用し課題のある児童への対応ができた。 ○縦割り活動を通して、互いを思いやる姿が見られるようになった。
	〈体〉 体輝きたくましく	Ⓐ・B・C・D	<ul style="list-style-type: none"> 栄養教諭と連携した食育の推進 体力向上委員会を中心とした体力向上策の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○体育で毎回持久走を取り入れるようになった結果、体力向上につながっている。 ▲「はやね・はやおき・あさごはん」運動を家庭と連携して進めてきたが、家庭の事情により「はやね」ができない家庭がある。
学力向上	基礎学力の定着	Ⓐ・B・C・D	<ul style="list-style-type: none"> 朝の時間を活用した読書、計算、漢字練習への取組 「金曜日プリント」による既習漢字の習熟 	○スキル学習の継続により、児童の意欲や基礎学力の向上が見られた。今後も継続していきたい。
	活用する力の伸長	Ⓐ・B・C・D	<ul style="list-style-type: none"> 「みやぎ単元問題ライブラリー」等の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○学力学習状況調査の結果から、「活用する力」の伸びが認められた。 ○さらに工夫して指導していきたい。
	主体的・体験的学習の展開	Ⓐ・B・C・D	<ul style="list-style-type: none"> 「作文発表会」の実施、「書く活動」を大切に実践の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○書くことや話すことへの抵抗感が薄くなり、意識の向上が感じられる。 ○表現する力をさらに伸ばす指導を継続する。
心の教育	心のケアを含む 心の教育	Ⓐ・B・C・D	<ul style="list-style-type: none"> 事案が発生したときはケース会議をもち学校として迅速に対応する。 	○事案が数件発生したが、ケース会議で共通理解を図りながら適切に対応できた。カウンセラーは今後も派遣していただきたい。
	志教育の推進	Ⓐ・B・C・D	<ul style="list-style-type: none"> 「みやぎの志教育」の再確認と周知 事例集の紹介 教育活動との関連確認 	<ul style="list-style-type: none"> ○「先人集」を使用した道徳や、外部講師を招いた志授業など各学年で意識した取組が見られる。 ▲指導計画へ明確な位置づけを行う。
体力	体力向上に向けた取組	Ⓐ・B・C・D	<ul style="list-style-type: none"> 体を動かす時間として「おひさまタイム」の設定した。水泳・なわとび マラソンカードを作成し、全校で取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日常的に体力向上について意識して取り組むことができた。 ▲スポーツテストの結果の向上に向けた方策の検討を考えたい。

生活習慣	基本的な生活習慣の育成	Ⓐ・Ⓑ・C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・保健だよりで良い生活習慣を紹介 ・学級活動を通しての睡眠や食生活の指導 	<p>○生活全般において指導を行い、意識付けを図ってきた。</p> <p>▲今後は家庭で生活習慣の見直しなどができるような方策も検討したい。</p>
防災	地域防災の視点に立つ危機管理体制	A・Ⓑ・C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との体制作りのために、サポート委員会やPTAの協力を得て学校と地域の連携を図る。 	<p>○各会からは学校に対して協力をいただいている。</p> <p>▲地域が復興していない状態なので現状として体制作りは難しく、今後の課題である。</p>
	大震災の経験を生かした防災教育	A・Ⓑ・C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・地震が起きたら津波が来ることを念頭に、2次避難場所としてできるだけ高い場所への避難訓練を実施。 ・避難マニュアルの作成 	<p>○マニュアルを作成し、教職員の共通理解が図られた。</p> <p>▲今後も改善を加えていく。</p>
いじめ不登校	いじめ防止対策	A・Ⓑ・C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回のアンケートの実施と、それを活用した個別面談 ・校内ケース会議の実施・保護者との面談 	<p>○教育相談を通して、家庭との連携が図られた。</p> <p>▲アンケート結果を全職員で共有する場を設定していきたい。</p>
	不登校対策	Ⓐ・B・C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・校内ケース会議 ・保護者との教育相談 ・家庭訪問と電話連絡 	<p>○家庭と学校が同一歩調で子どもに対応することができた。</p> <p>▲職員間で指導について共通理解をして進めていきたい。</p>
地域連携	開かれた学校づくり	Ⓐ・B・C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観日の内容を検討し学級懇談の参加率を上げる。 ・学校便りを地区にも配付し、取組を知らせる。 	<p>○学習参観を土曜日に実施することで懇談会の参加率が上がった。</p> <p>▲ホームページの活用を推進する。</p>
	説明責任の状況	A・Ⓑ・C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・サポート委員会や保護者懇談会で、学校の取組を知らせる。 	<p>○サポート委員の学校評価アンケート結果から、概ね理解をいただいていることが分かった。</p> <p>▲保護者に対しては更に丁寧に取組を知らせていく。</p>
資質向上	現職教育	A・Ⓑ・C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・県内外の公開研究会への参加と伝講研修会での研修内容の共有 ・特別支援教育の研修会の実施 	<p>○各種研修会で教員の意欲や指導力を高めることができた。</p> <p>▲児童の実態や職員のニーズに合わせた研修会を開催していく。</p>
	校内研究	Ⓐ・B・C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・指導案検討会や模擬授業を通じた、「ひとつの授業を全員でつくる」実践的な研修の推進 	<p>○教職員の意欲と指導力の向上を図ることができた。</p> <p>▲より授業力を高める校内研究を推進していく。</p>

特色ある教育活動	縦割り活動	A・B・C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・水曜日にふれあいタイムの実施 ・PTAと共に「山二ふれあい広場」を実施 	<p>○子ども同士で協力する態度が育っている。高学年はリーダーとして責任ある行動ができた。</p> <p>▲今後も内容を吟味して継続していく。</p>
----------	-------	---------	---	---

— 坂元中学校 —

No.	項目	評価	主な具体的対策	成果と課題 ○：成果 ▲：課題
学校教育目標	〈知〉 目的をもって自ら学び、自立する生徒の育成	A・B・C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の工夫改善・CRTの活用 ・校内研究の推進 ・放課後学習・家庭学習の推進 	<p>○外部団体との連携による放課後学習会の成果が大きかった。</p> <p>▲表現力、思考力を高める授業研究会を毎月実施したが、検討会の開催が難しかった。</p>
	〈徳〉 思いやりと奉仕の心をもった心豊かな生徒の育成	A・B・C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の授業の充実 ・アンケートによる早期発見と対策 ・スクールカウンセラーとの連携 	<p>○アンケートを活用し、いじめに発展する前の集団生活の中での発達課題としての問題を解決することができた。</p> <p>○カウンセラー、保護者との効果的な相談活動を展開し効果を上げた。</p>
	〈体〉 心身ともに健康でたくましい生徒の育成	A・B・C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・昼ブラッシングの励行 ・外部講師による安全教室等開催 ・部活動強化週間の設定 	<p>○養護教諭、栄養士による食と健康に関する特別授業の実施で、生徒の健康や食に関する意識が高まった。</p> <p>○口腔講話、薬物乱用、交通安全等、外部講師による講習会の開催で生徒の知識、理解が深まった。</p>
学力向上	基礎学力の定着	A・B・C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・TT、少人数指導を中心とした学習指導(数学・英語) ・家庭学習の習慣化を図る指導の工夫(家庭学習の手引きの活用) ・Sタイムの充実(放課後の学習支援、長期休業中の学習支援) 	<p>○CRT検査の3ヵ年の追跡調査の結果、国語科「話す・聞く能力」、数学「数学的な技能」、理科「科学的な思考表現」の正答率の向上が見られた。</p> <p>▲基礎知識の理解は全国・県平均値より低く、個に応じた指導の工夫が必要。</p>

	活用する力の伸長	A・ B ・C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・表現力を育成するための「伝え合う活動」を取り入れた授業づくり ・全教職員による研究授業の充実（CRT検査, QUテストの活用と実態把握） ・朝読書の習慣化と朝ドリル学習の実施（授業につながる家庭学習の指導） 	<p>○発表力, 課題を追求する思考・判断力が向上しつつある。</p> <p>▲授業につながる家庭学習の習慣化を図るための指導の手立てを明確にする。</p>
	主体的・体験的学習の展開	A ・B・C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習「おもだか」の計画と実践 ・文化祭, 1年「仮設住宅訪問」「グランドゴルフ大会」(老人会の方を招いて), 2年「職場体験学習」, 3年「東京自主研修」「話し方教室」等の取り組み 	<p>○志教育, 道徳と各教科との関連を図りながら, 体験的な学習の指導を通して「人とかかわることの大切さ」に気付かせ, 道徳の時間で深めた道徳心を実践意欲につなげようとする生徒の姿が見られた。さらに継続させ充実を図りたい。</p>
心の教育	心のケアを含む 心の教育	A・ B ・C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・カウンセラーによるアンケートの実施 ・二者・三者面談, チャンス相談の活用 	<p>○行事や学級の集団作りを活用しての自己実現を図る手立てを工夫した。</p> <p>○震災後の心のケアを図ることに留意した。</p> <p>○生活態度に落ち着きが見られない生徒がおり, 教師との信頼回復に努めた。</p>
	志教育の推進	A・B・ C ・D	<ul style="list-style-type: none"> ・志教育全体計画と各教科との関連内容の見直し ・外部講師を活用し, 望ましい職業観の講話及び将来の夢構想の活動 ・みやぎの先人集を活用し, 地域の発展に貢献した先駆者の思いを学ぶ 	<p>○総合的な学習の時間において, 将来への夢をもつことができた。</p> <p>○道徳の時間において, 地域の先駆者の思いを理解することができた。</p> <p>▲各教科において, 志教育のねらいを踏まえた実践が不足していた。</p>
体	体力向上に向けた取組	A ・B・C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動における主体的な朝練習・昼練習の実施 ・全校生徒参加による陸上大会・駅伝大 	<p>○朝, 昼の自主練習により, 技術の向上以上に, 心身の鍛錬に効果があった。</p> <p>▲休日の大会や練習試合等で, 週明けに</p>

力・生活習慣			会の練習	疲れの残る生徒が見られた。
	基本的な生活習慣の育成	A・ B ・C・D	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会によるあいさつ運動の強化 チャイム予習の徹底 清掃強化週間の設定 	<p>▲一人一人のあいさつはできているが、授業開始や終了時の全体の声を大きくし、返事や発言をはきはきと大きな声で行うことが課題である。</p>
防災	地域防災の視点に立つ危機管理体制	A・ B ・C・D	<ul style="list-style-type: none"> 危機管理マニュアルの再見直し 避難所の運営マニュアルの作成 施設点検の充実 	<p>▲震災後一度見直しを図ったマニュアルを再度点検し、補足を加えることで足りない部分が明らかになった。</p>
	大震災の経験を生かした防災教育	A・ B ・C・D	<ul style="list-style-type: none"> 防災訓練の見直しと地域連携 防災教育を効果的に取り入れるための教育課程の編成 	<p>▲地域と連携した防災訓練への参加率が十分でない状態である。社会との関わりを図る中学生の役割を認識させる必要がある。</p>
いじめ不登校	いじめ防止対策	A・ B ・C・D	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な教育相談を通じた生徒の実態把握 学校生活アンケートの実施と結果をもとにした生徒対応 全教職員によるいじめ防止教育の研修会の実施 	<p>○生徒とかかわる時間を確保し、生徒の心の様子を確認することができた。</p> <p>○道徳の時間や学級活動を中心とした、いじめ防止教育の実践をすることができた。</p> <p>▲情報を共有し、全校体制で取り組む組織作りがうまく機能させられなかった。</p>
	不登校対策	A・ B ・C・D	<ul style="list-style-type: none"> 学級担任、学年担当教員、スクールカウンセラーを中心とした支援体制作り 家庭訪問や教育相談における生徒の実態把握 外部機関(けやき教室等)との連携 	<p>○学校と家庭との連携を深め、生徒の状況に合わせた指導ができた。</p> <p>○スクールカウンセラー等の助言をもとに支援を工夫することができた。</p> <p>▲1年女子の不登校状況の改善を図ることができなかった。</p>
	開かれた学校づくり	A ・B・C・D	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間における地域との協働 	<p>○地域との交流を深める実践で、地域の良さを再認識すると共に、社会との関</p>

地域連携			・外部講師を活用した協働教育の強化	わりの中で自己実現を果たしていく意識を向上させることができた。
	説明責任の状況	A・ B ・C・D	・各種たよりの定期的な発行とホームページの活用	○地域向けの学校だより地域版を発行し、教育活動の周知を図り、地域の教育力向上の一助とすることができた。
資質向上	現職教育	A・B・ C ・D	・校内研修	▲毎月の授業研究会は実施できたが、検討会の設定ができず、改善論を深めるところまでいかなかった。
特色ある教育活動	キャリア教育の充実	A ・B・C・D	・職場体験学習 ・外部団体を活用したキャリアセミナー	○様々な職業の講師を迎え、仕事のやりがいや意義について学ぶことができた。 ○地域の職場での体験で、働くことを身近に感じ、将来像を描くことができた。
	地域と共に歩む協働教育の推進	A ・B・C・D	・地域の人材を活用した外部講師の導入 ・総合的な学習の時間における地域との連携を図った教育活動	○「話し方教室」「琴の授業」等、地域の身近な専門講師による授業で、意欲の向上を図り、学習内容の理解を深めることができた。

No.	項目	評価	主な具体的対策	成果と課題 ○：成果 ▲：課題
学校教育目標	〈知〉真剣な学習活動が行われる学校	A・ Ⓐ ・C・D	<ul style="list-style-type: none"> 多様な学習活動の展開 基礎・基本を定着させる指導の工夫 家庭学習の習慣化 学習塾による学習支援 	▲家庭学習は習慣化してきたが、授業との関わりを持たせ、内容をもっと充実させていきたい。
	〈徳〉明るく秩序のある学校 集団としてのきまりが身に付く学校	Ⓐ ・B・C・D	<ul style="list-style-type: none"> 自己存在感を育てる支援の工夫 豊かな人間関係を育てる指導・支援の工夫 震災支援への感謝の気持ちを表す活動の展開 	○支援をいただいた中学校との交流を通して感謝の気持ちを表す活動ができた。
	〈体〉教師と生徒が一緒になって汗を流す学校	Ⓐ ・B・C・D	<ul style="list-style-type: none"> 保健体育の授業での運動量の確保 部活動での基礎体力作りの充実 	○部活動での基礎体力作りの取組がほとんどの部で充実してきた。
学力向上	基礎学力の定着	A・ Ⓐ ・C・D	<ul style="list-style-type: none"> ステップアップノートを活用した家庭学習の充実 	○家庭学習の習慣化が進んだ。 ▲授業の中でドリル学習の時間を十分に確保できなかった。
	活用する力の伸長	A・ Ⓐ ・C・D	<ul style="list-style-type: none"> 言語活動を意識した授業の構築 	○グループでの討議などを取り入れた授業を各教科で実践できた。 ▲資料活用力を高める必要がある。
	主体的・体験的学習の展開	Ⓐ ・B・C・D	<ul style="list-style-type: none"> 発表する機会を意識的に取り入れた指導の継続 	○発表に向けて、考えをまとめる手立てを指導することができた。 ▲生徒の課題意識を高める必要がある。
心の教育	心のケアを含む心の教育	Ⓐ ・B・C・D	<ul style="list-style-type: none"> 実態調査やアンケートによる問題の早期発見 支援員、SCとの連携強化 	○月1回のいじめアンケートで早期発見に努め、丁寧に対応することができた。
	志教育の推進	Ⓐ ・B・C・D	<ul style="list-style-type: none"> 職場体験、地域でのボランティア 地域の人材活用 	○地域での職場体験や地域の人材による講演を行い、よりよい生き方について生徒の意識を高めることができた。
舌生	体力向上に向けた取組	Ⓐ ・B・C・D	<ul style="list-style-type: none"> 保健体育の授業での運動量の確保 	○職員が基礎体力の重要性を認識し、

			<ul style="list-style-type: none"> ・部活動での基礎体力作りの充実 ・陸上・駅伝の練習の工夫 	全校体制で取り組むことができた。
	基本的な生活習慣の育成	Ⓐ・Ⓑ・Ⓒ・Ⓓ	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導内容の共通理解・共通行動 ・全職員による下校指導の実施 ・穏やかな一日のスタートを切る朝読書 	○保護者との連携を図り、服装の指導を行い、異装はほとんどなかった。
防災	地域防災の視点に立つ危機管理体制	A Ⓑ C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携構築 ・防災倉庫の維持管理 ・避難所開設訓練の実施 	○防災主幹が地域の会議を傍聴し、地域の動きを確認することができた。 ▲避難所開設訓練は実施できなかった。
	大震災の経験を生かした防災教育	A Ⓑ C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な避難・防災訓練の実施 ・自分にできることは何かを考えさせる授業 	○授業中、休み時間、放課後等に避難訓練を行い、問題点を把握することができた。
いじめ不登校	いじめ防止対策	A Ⓑ C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回のアンケート実施 ・Q-Uを生かした学級づくり 	○アンケートで早期発見に努め、丁寧に対応することができた。 ○Q-Uの結果から個別に対応できた。
	不登校対策	A Ⓑ C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・早めの家庭訪問 ・別室での指導の充実 ・多くの職員による対応 	○3年生は全員別室登校することができるようになった。 ▲家庭との連携を取りながら、学年担当を中心に指導を継続していく。
地域連携	開かれた学校づくり	Ⓐ・Ⓑ・Ⓒ・Ⓓ	<ul style="list-style-type: none"> ・各種たよりの充実 ・ホームページの充実 	○各種たよりを積極的に発行した。 ○ホームページを適宜更新した。 ▲情報発信のより一層の充実を図る。
	説明責任の状況	A Ⓑ C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・各種たよりの充実 ・情報の蓄積 	○報告・連絡・相談を密に行うことができた。 ○情報の蓄積・共有ができた。
資質向上	現職教育	A Ⓑ C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・Q-Uについての研修 ・外部講師の活用 	○職員の実態に応じた研修を行うことができた。 ○Q-Uの活用が促進された。
		A Ⓑ C・D	<ul style="list-style-type: none"> ・年間一人1回以上の授業研究 	○一人1回の授業研究を行うことができた。

	校内研究		・言語活動の充実を図る指導の工夫	きた。 ▲授業検討会の持ち方を工夫したい。
特色ある教育活動	特別支援学校との交流	Ⓐ B・C・D	・インクルーシブ事業の活用 ・生徒による交流会の計画立案	○本校・支援学校双方の生徒にとって有意義な交流を行うことができた。
	地域ボランティア活動	Ⓐ B・C・D	・ボランティア活動への積極的な参加 ・ボランティア担当の校務分掌への位置づけ	○生徒・職員共に意欲的に参加することができた。

(3) 学校給食の概要について

1. 給食回数

小学校 174回～179回

中学校 168回～180回

2. 給食の形態（完全給食）

米飯給食 週4回（月、火、木、金）

パン給食 週1回（水） 麺給食併用

3. 給食運営の負担区分

町費負担 給食施設の維持管理経費、人件費、消耗品等

保護者負担 小学校 270円（児童1人 1食あたり）

中学校 310円（生徒1人 1食あたり）

4. 食材の放射能物資検査について

食品放射能測定システムによるセシウム137等の検査

平成24年4月25日より週2回、2種類の検査、延べ78回実施

検査結果は、いずれも不検出

5. 米飯・パン業者

米飯は、加賀屋（名取市）、パンは、ささもり菓子舗（角田市）

4 生涯学習の推進

(1) 生涯学習の充実

生涯学習分野においては、教育方針を基に社会教育の活動推進、地域文化の保護と活用、並びに社会体育と生涯スポーツの振興を重点政策として、地域コミュニティの再構築を目的とした協働教育を推進するなど、住民主体による家庭、地域、学校等が一体となった協働によるまちづくりに取り組みました。中でも、協働教育を推進するため、昨年度に引き続き協働教育コーディネーターを2名配置し、より一層の協働教育の連携強化を図りました。

また、震災の影響を受けた社会教育施設の復旧が概ね完了したことから、住民や各種社会教育団体が震災前の水準での活動ができるように、生涯学習施設・体育施設の維持管理・利用調整等を行い、活動の支援を行いました。

① 家庭教育の活性化

協働教育の一環として、家庭教育学級や家庭教育関連事業の充実を図るとともに、親子のふれあいの機会を拡充し、家庭と地域、学校、そして行政が一体となって家庭教育の活性化に努めました。

ア. 家庭教育事業

No.	事業名	期間	回数	参加者	備考
1	子育てひろば 「きらり☆」 (乳幼児・幼児と保護者 対象)	6/20 ～ 1/16	6	23組 46人 (延べ 77組 154人)	協力：家庭教育支援チーム 「夢ふうせん」
2	家庭教育・幼児学級 (来春就学予定の幼児 と保護者対象)	6/13 ～ 2/18	12	60組 120人	協力：家庭教育支援チーム 「夢ふうせん」、各小学校

イ. 保育所及び幼稚園における家庭教育の推進事業

No.	事業名	期間	回数	参加者	備考
1	親子ピクス (南保育所)	1/18	1	55人	内訳：園児 30人 保護者 25人
2	親子演劇会 (やまもと幼稚園)	2/12	1	144人	鑑賞者：園児、保護者、なかよし 会会員
3	親子ピクス (北保育所)	2/1	1	20人	内訳：園児 10人 保護者 10人

ウ. 家庭教育支援者の養成

No.	事業名	期間	回数	参加者	備考
1	子育てサポーター・ リーダーネットワーク 研修会	5/1 ・ 2/20	2	9人	主催：宮城県教育委員会
2	子育てサポーター リーダー養成講座	5/30 ～ 11/6	4	3人	主催：宮城県教育委員会

3	子育てサポーター 養成講座	8/28 ～ 10/29	3	5人	主催：宮城県教育委員会
4	読み聞かせボランテ ィア養成講座	9/26 ～ 12/13	4	22人	主催：宮城県教育委員会
5	地域教育資源活性化 支援事業	10/22 ～ 2/25	4	27人	主催：宮城県教育委員会
6	家庭教育支援チーム 「夢ふうせん」スタッ フ研修会	11/20	1	9人	名取市の取り組みを視察研修
7	子育てサポーター・ サポーターリーダー フォローアップ研修 会	12/11	1	7人	主催：宮城県教育委員会

エ. 応急社会教育施設「内手館」の設置

震災時に内出仮設住宅敷地内に設けられた仮設歯科診療所が供用を終えたため、応急社会教育施設「内手館」と位置付け整備し、維持管理を行いました。

また、当該施設を関係団体の活動の場として提供し、併せて利用団体の運営補助を行いました。

No.	団体名	内容	活動日
1	育児サークル「なかよし会」	親子共同保育	毎週木曜日
2	家庭教育支援チーム「夢ふうせん」	家庭教育支援	毎週火曜日

※その他、子育て通信「夢ふうせん」(年6回)の発行

② 青少年学習活動の支援

協働教育の一環として、青少年の学習、社会活動への参加を促進するため、活動場所の提供や指導者の確保、情報の収集・提供等を軸とした学習環境の充実に努めました。

また、活性化のため、各種イベント活動、ボランティア活動、まちづくり活動等への積極的な関与を促し、青少年関係団体の育成や集団活動に支援を行いました。

ア. 生涯学習指導者養成事業等

No.	事業名	期間	回数	参加者	備考
1	インリーダー講習会 (小学5年生対象)	2/22 ～ 2/23	1	8人	会場：宮城県蔵王自然の家 協力：山元ボランティアサークル虹
2	ジュニア・リーダー 初級研修会 (中学2・3年生対象)	3/15 ・ 3/25	2	5人	会場：中央公民館
3	学校開放 「やまもと楽校」	11/17	1	65人	会場：山下中学校 協力：町内学校教職員10名
4	放課後児童クラブ指 導員等ブロック研修 会	7/1	1	10人	主催：宮城県教育委員会
5	放課後子ども教室指 導者等研修会	11/14	1	4人	主催：宮城県教育委員会
6	スタッフ研修会	2/14	1	7人	会場：坂元小学校

イ. 主催事業

No.	事業名	期間	回数	参加者	備考
1	山元町成人式	1/12	1	106人	新成人有志が実行委員会を 組織し、アトラクション等の 企画・運営を行なった 実行委員：15人 委員会：11回

ウ. 補助事業関係

No.	事業名	期間	回数	登録者	備考
1	みやまっこクラブ (山下小・山一小・山 二小対象)	5/13 ～ 3/10	28	25人 (延べ 524人)	会場：山下第一小学校 スタッフ数10人(延べ170 人)
2	はまっこキッズ	5/10	34	46人	会場：坂元小学校・坂元公民

	(坂元小・中浜小対象)	～ 3/14		(延べ 1,175 人)	館 スタッフ数 16 人 (延べ 219 人)
--	-------------	-----------	--	--------------------	-------------------------------

③青年活動の推進

青年による自主的な文化（音楽）活動の推進に繋がるよう、発表の場の提供を行ない、活動の支援を行いました。また、青少年が活動を行うための施設の利用調整等を行ないました。

ア. 生涯学習指導者養成事業等

No.	事業名	期間	回数	参加者	備考
1	青年活動活性化事業 「勤労ホームロビー ミニコンサート」	10/20 ～ 2/16	3	(延べ) 100 人	会場：勤労青少年ホームロビー

④地域と世代間交流・学習活動と発表の場の提供

子どもから高齢者まで、潤いと生きがいのある生活を送ることができるよう、健康・教養・趣味等の学習ニーズに対応できる学習・実践・発表機会の場の提供を行ない、地域間や世代間交流の推進と支援に努めました。

ア. 共催事業等

No.	事業名	期間	回数	参加者	備考
1	子どもも大人もみんな で遊び隊～音楽と 謎解きで遊び隊～	5/5	1	500 人	会場：少年の森 主催：子どもも大人もみんな で遊び隊
2	子どもも大人もみんな で遊び隊	8/4	1	1,000 人	会場：中央公民館 主催：子どもも大人もみんな で遊び隊

イ. 高齢者向け実施事業

No.	事業名	期間	回数	参加者	備考
1	いきいきシニアライフ (山下地区 60 歳以上)	6/28 ～ 11/29	5	41 人 (延べ 101 人)	主催：中央公民館 共催：山元町老人クラブ連合会

2	いきいきシニアライフ (坂元地区 60 歳以上)	6/25 ～ 11/26	5	12 人 (延べ 40 人)	主催：坂元公民館 共催：山元町老人クラブ連合会
---	-----------------------------	--------------------	---	----------------------	----------------------------

⑤コミュニティ振興関係事業

コミュニティ関係団体及び事業参加者に対し補助金・負担金の交付を行いました。また、関係団体の活動を支援し、活性化に努めました

ア. コミュニティ関係団体に対する補助金の交付

No.	団体名称	金額 (円)
1	すばらしいやまもとを創る協議会	70,000
2	山元町国際交流協会	100,000

イ. 姉妹・友好都市シニアリーダー研修・交流会参加者に対する負担金の助成

No.	事業名	金額 (円)	備考
1	第 17 回姉妹・友好都市シニア リーダー研修・交流会	20,000	@5,000×4 人

ウ. コミュニティ関係機関に対する負担金

No.	団体名称	金額 (円)
1	公益財団法人宮城県国際化協会	11,791

⑥学校教育支援 ※生涯学習課が関わった事業のみを掲載

小中学校の要望に応じて、協働教育コーディネーターを通じ、指導者や安全見守りボランティアの情報提供及び連絡調整を行い、協働教育の充実を図り協働教育を推進した。

No.	学校名	学年	期間	内容	備考
1	山下小	1・2	4/11	交通安全教室安全見守り	ボランティア 3 名
		4～6	5/10～	鼓笛金管バンド指導	指導者 1 名 (年 30 回)
		5	5/30	田植え活動学習支援	ボランティア 4 名
		2	6/25	校外学習 (少年の森) 安全見守り	ボランティア 3 名
		-	7/4～	読み聞かせボランティア	ボランティア 1 名 (年 10 回)

		3	7/4	生活科授業（少年の森）安全見守り	ボランティア6名
		5	10/31	稲刈り活動学習支援	ボランティア3名
		1~6	11/1	縦割り登山安全見守り	ボランティア6名
		2	11/18	町探検安全見守り	ボランティア6名
		3	11/26	校外学習（りんご園）安全見守り	ボランティア2名
		1~6	11/27	持久走大会安全見守り	ボランティア5名
2	山一小	1~6	4/11~	農作物育成指導	指導者1名（年10回）
		4・5	7/17	親子行事「陶芸教室」指導	指導者1団体
		1~6	10/9	国際理解集会（講師派遣）	講師1団体（4名）
3	山二小	1・2	4/11	交通安全教室安全見守り	ボランティア3名
		3~6	1/9	書道指導	ボランティア1名（年3回）
		4~6	1/23・24	「志教育」に関連した道徳授業（講師派遣）	講師1名
4	坂元小	3	6/12	公民館見学	公民館職員2名
		3	6/24~	りんご学習指導	指導者1名（年3回）
		5	7/3~	いちご学習指導	指導者1名（年4回）
		6	7/4	親子行事「ランプ作り」指導	指導者1名
		1~6	9/13	発掘調査現地説明会	生涯学習課職員2名
5	山下中	2	5/8~9	職場体験活動（受入事業所調整等）	協働教育コーディネーター2名
		1	7/4	情報モラル授業（講師派遣）	講師1名
6	坂元中	2	10/16~18	職場体験活動（受入事業所調整等）	協働教育コーディネーター2名
		3	12/9~	話し方教室（講師派遣）	講師1名（年4回）
		1~3	1/14	琴の実技指導	指導者1名（年2回）
		1	1/22	歴史民俗資料館見学	生涯学習課職員1名

⑦社会教育関係団体の育成・支援

社会教育関係団体の育成と社会教育の推進、及び公民館の安全運営のため、

各協議会に参加し情報交換等を行いました。また、各団体への自主的活動の側面支援を行ない、社会教育の振興に努めました。

ア. コミュニティ関係団体に対する補助金の交付

No.	団体名称	金額 (円)
1	仙台教育事務所管内社会教育委員連絡協議会	10,000
2	仙台管内子ども会育成連絡協議会	10,000

イ. 公民館関係団体に対する負担金

No.	団体名称	金額 (円)
1	亶理地区防災安全協会	6,000
2	宮城県公民館連絡協議会	5,400
3	全国公民館振興市町村長連盟	5,000

ウ. 社会教育関係団体等育成のための補助金の交付・事業参加負担金の助成

No.	団体名称	金額 (円)	備考
1	なかよし会	13,000	
2	山元町青少年育成推進協議会	70,000	
3	山元町小中学校連合父母教師会	20,000	
4	山元ボランティアサークル虹	21,000	
5	山元町坂元地区高校生親の会	13,000	
6	亶理地区少年補導員協会	68,000	
7	山元町文化協会	280,000	
8	山元町老人クラブ連合会	309,000	
9	各単位老人クラブ (5団体)	242,500	@48,500
10	ジュニア・リーダー中級研修会	3,102	参加者1人

⑧生涯学習施設等の環境整備

就業機会の創出を目的として宮城県が実施する緊急雇用創出（震災等緊急雇用対応）事業補助金により、4人の臨時職員を雇用し、生涯学習課が所管する施設の草刈り作業や清掃作業、軽微な修繕等を行い、各施設の環境整備に努めた。

⑨教育施設の復旧工事及び修繕

震災の影響による社会教育施設（建物）の復旧は平成24年度までに完了、平成25年度は敷地法面の復旧工事を実施し、震災からの施設の復旧工事は概ね完了しました。なお、利用者が安全に施設を利用できるよう小破部分の修繕等を行ない、環境の整備に努めました。

ア. 震災復旧工事等

No.	工事名等	金額（円）
1	中央公民館施設等法面災害復旧工事	21,779,100
2	中央公民館施設等法面災害復旧工事施工管理	1,745,000

イ. 施設の修繕工事等

No.	工事名等	金額（円）
1	高圧気中開閉器更新工事	830,550
2	仮設非常用発電機設置工事	1,512,000
3	仮設非常用発電機電気設備工事	1,512,000
4	広場ネットフェンス撤去工事	77,000
5	玄関修繕工事	92,400
6	内壁補修工事	116,550
7	トイレ入口引戸改修工事	155,400

(2) 生涯スポーツの推進

震災の影響により、所管する体育施設が被災し、また、応急仮設住宅の用地として緊急的に使用されていることから、以前のような社会体育の事業実施や関係団体への活動場所の提供が難しい状況となっています。

しかし、スポーツに親しむ環境の整備が必要なことから、復旧を終えた施設の利用調整等を行うとともに、各種関係団体への育成や、仮設住宅の集会所を会場としたニュースポーツ体験事業等を実施し、スポーツの推進を行ないました。

① スポーツ活動の推進

町民の健康増進とスポーツの普及発展を図るため、スポーツ大会等の開催や、他機関が開催する大会への参加を行ないました。また、スポーツ推進員13名を委嘱し、地域住民等へ広くスポーツ活動の促進を図るとともに、ニュースポーツ等の普及に努めました。

ア. 事業実施状況

No.	事業名	期間	回数	参加者	備考
1	スポーツ少年団入団式 及びスポーツテスト	5/26	1	118人	会場：山下小学校校庭及び体育館
2	ニュースポーツ 仮設住宅出前教室 (お茶っこサロン：8ヶ所)	7/4 ～ 12/7	8	(延べ) 103人	会場：各仮設住宅集会所 指導者：スポーツ推進委員
3	未来への道 1,000 km縦断リレー	8/1	1	16人	タスキ中継所：山一小、役場、 体育文化センター
4	宮城ヘルシー2013 ふるさとスポーツ祭 仙台管内大会	8/25	1	17人 (※)	会場：宮城県総合運動公園 主催：宮城県・宮城県教育委員会ほか4団体
5	スポーツ少年団 第30回ミニオリンピック	10/13	1	112人	会場：坂元中学校校庭
6	ニュースポーツ体験会 (パークゴルフ)	11/23	1	105人	会場：歴史民俗資料館前芝生
7	10,000人寒稽古 (剣道、柔道)	1/25	1	52人	会場：体育文化センター

(※) 山元町からの出場人数。出場種目は、ペタンク、グラウンドゴルフ。

② スポーツ競技者及び団体等への支援体制の整備

スポーツ団体への助成を行い広くスポーツの推進を図るとともに、全国大会等へ出場する選手(団体・個人)に対し賞賜金を交付し、スポーツの振興を推進しました。

ア. スポーツ活動団体に対する補助金等

No.	団体名称		金額（円）	備 考
1	山元町体育協会	山元町体育協会補助	1,246,000	13 団体が加盟
2	各行政区	地域スポーツ・レクリエーション補助金	30,000	10,000×3 行政区
3	全国大会出場者	全国大会出場賞賜金	185,000	個人 17（14 人） 団体 2（2 団体）

（3）魅力ある地域文化の醸成

本町ではより豊かな地域社会を醸成するため、伝統文化の保存・継承、新しい地域文化の創造・発信、町民文化活動の育成への支援、伝統芸能保存団体などの育成、町民個人と文化芸能との出会いや文化活動に関わる人同士の交流の促進などに取り組んできました。

しかし、震災により、これまで培われてきた伝統文化を継承する地域コミュニティが分散したばかりでなく、津波により伝統道具や資材が流失するなど、伝統文化の保存・継承が危ぶまれる状況となりました。このような状況を踏まえ、震災後から行なってきた無形文化財保存団体等による情報交換会を「山元町無形文化財復興協議会」と位置付け、改めて情報交換を密にし、各支援団体等から補助を受けるなどして活動を再開させているところです。

また、町内には、縄文時代の北経塚遺跡や古墳時代から近世の的場遺跡・石垣遺跡といった埋蔵文化財をはじめとする多くの文化財が残されており、これらは山元町の歴史と文化の原点とも言えるものであることから、開発等により影響を受ける場合にあっても、発掘を行ない保存・記録に努めました。

①芸術文化の振興

関係機関並びに関係団体と連携を図りながら各種事業を実施し、芸術文化に身近に親しむ機会を提供した。

ア. 芸術文化活動事業実施状況

No.	事業名	期間	回数	参加者数	備 考
-----	-----	----	----	------	-----

1	次代を担う子どもの 文化芸術体験事業 「色遊び：探検！いろい ろ探し！」 (北保育所)	9/6	1	33 人	文化庁委託事業
2	宮城県巡回小劇場 「演劇：あとむの時間は アンデルセン」 (坂元小・坂元中)	9/10	1	180 人	主催：宮城県教育委員会 共催：山元町教育委員会
3	第 3 7 回町民文化祭	11/1 ～ 11/3	1	2,500 人	主催：山元町文化協会
4	第 1 7 回文化推進事業 「東方落語公演」	11/2	1	200 人	主催：山元町文化協会
5	次代を担う子どもの 文化芸術体験事業 「ミュージカル：イソッ ブランドの動物たち」 (山一小)	12/12	1	142 人	文化庁委託事業 事前ワークショップ 9/26
6	芸術銀河 2013 「舞台ワークショップ」 (山二小)	2/4 ～ 2/13	3	23 人	主催：みやぎ県民文化創 造の祭典実行委員会

②民俗芸能団体の育成

町内の伝統芸能保存団体の情報交換会（山元町無形文化財復興協議会）を実施するとともに、構成団体に補助金の交付を行ない、伝統文化の育成・保存を図りながら、これまで通りの活動ができるように支援を行ないました。

ア. 伝統文化保存団体等の育成のための補助金の交付

No.	団体名称	金額（円）
1	坂元おけさ保存会	10,000
2	坂元神楽保存会	10,000
3	山寺深山神楽保存会	10,000

③文化財の保存・保護

ア. 埋蔵文化財の保護（常磐自動車道関係）

常磐自動車道建設に伴い、山元 I C から県境までの常磐自動車道施工路線内に所在する埋蔵文化財（遺跡）について、文化財保護法に基づき、発掘調査等を実施しました。

・発掘調査の実施

No.	遺跡名	行政区	調査期間	調査面積
1	的場遺跡	山寺区	6/28～8/9	約 500 m ²

※上記調査をもって常磐自動車道に関する現地発掘調査は完了

・遺物整理、報告書の作成

上記的場遺跡を含め、昨年度までに現地発掘調査が完了している遺跡について、遺物の整理・報告書の作成等を行いました。

○鷲足区：中筋遺跡

○山寺区：日向北遺跡、日向遺跡、谷原遺跡、石垣遺跡、的場遺跡

イ. 埋蔵文化財の保護（復興交付金関係）

東日本大震災に伴う防災集団移転等の復興事業や被災した個人の住宅再建等に伴い破壊される恐れのある埋蔵文化財について、復興交付金を活用し、その発掘・調査・記録を行いました。

・発掘調査の実施

No.	遺跡名	行政区	調査原因	調査内容	調査期間	調査面積
1	合戦原遺跡	高瀬区	防集移転・災公住宅	確認調査	4/9～3/31	約 89,280 m ²
2	小平館跡	小平区	個人住宅	確認調査	4/26	約 6 m ²
3	小平館跡	小平区	個人住宅	本発掘調査	6/4～14	約 330 m ²
4	蓑首城跡	下郷区	坂小講堂改築事業	確認調査	8/26・27 11/12～14	約 368 m ² 約 47 m ²
5	山下遺跡	浅生原区	津波避難道路造成	確認調査	9/18～1/31	約 346 m ²
6	大平遺跡	大平区	個人住宅	確認調査	11/20	約 104 m ²

7	谷原遺跡	山寺区	個人住宅 ・事務所	確認調査	11/26・27	約 146 m ²
8	中道遺跡	鷺足区	個人住宅	確認調査	11/28～12/3	約 150 m ²
9	谷原遺跡	山寺区	個人住宅	本発掘調査	12/5～20	約 344 m ²
10	熊の作遺跡	町区	個人住宅	確認調査	12/17・18	約 160 m ²

ウ. 埋蔵文化財の保護（その他の開発に係る事業）

・発掘調査の実施

No.	遺跡名	行政区	調査期間	調査面積
1	鷺足館跡	鷺足区	12/20～3/31	約 4,000 m ²

エ. 文化財包蔵地の環境整備

町指定文化財である葺首城跡の標柱の建て替えや、中島館跡・愛宕山館跡・大條氏御廟・茶室等の草刈り、枝払い等を実施し、環境整備に努めました。

③伝統文化の保存と展示・活用と活動場所の環境整備

歴史民俗資料館は震災からの復旧工事も終え、町内に残る貴重な文化遺産（歴史・美術・民俗的な資料や自然環境に関する資料）の収集保存・整理を行い、収蔵品は常設展により展示することに併せ、企画展『発掘された山元町－北経塚遺跡 発掘調査成果展－』を開催し、広く歴史文化の理解と振興に努めました。

また、ＪＲ常磐線関連工事に伴う熊の作遺跡発掘調査（宮城県が実施）から出土した「木簡」の特別展示を１２月２０日から行いました。

併せて、関係する資料館等との情報共有を図るため、協議会等に参画し、情報交換や運営を行いました。

ア. 文化財行政団体への参画

No.	団体名称	金額（円）
1	宮城県博物館等連絡協議会	9,500
2	宮城県南資料館等連絡協議会	5,000
3	宮城県史跡整備市町村協議会	4,500

(4) 社会教育・社会体育施設の活用

震災前には広く町民に活用されていた施設も、被災し、または避難所や震災関連の物資倉庫、仮設住宅用地として利用されたことから、施設の運用には未だ多くの制約が残っております。

このような状況の中、復旧を終え本来の目的に使用することが出来るようになった施設については、町民の生涯学習活動・スポーツ活動の拠点として施設を開放しました。

①社会教育施設の利用状況

No.	施設名	前年度利用者数	平成25年度利用者数
1	中央公民館	33,289	46,241
2	勤労青少年ホーム	8,826	8,921
3	坂元公民館	17,003	15,405
4	深山山麓少年の森	14,262	14,402
5	歴史民俗資料館	1,124	1,582
6	ふるさと伝承館	4,397	6,035

②社会体育施設の利用状況

No.	施設名	前年度利用者数	平成25年度利用者数
1	体育文化センター	9,646	20,119
2	山寺深山グラウンド	4,449	4,991
3	真庭グラウンド	2,803	1,150

IV 東日本大震災に伴う施設被害及び復旧状況等

平成23年3月11日午後2時46分、太平洋三陸沖を震源とした東北地方太平洋沖地震が発生し、山元町では震度6強の揺れを記録するとともに、この地震によって大規模な津波が発生し、沿岸部にある建物等を中心に甚大な被害を受けました。

大震災から3年が経ち町は復旧から復興へ向けて歩んでいます。

①学校施設の被害状況

東日本大震災による影響から本年度より中浜小学校は坂元小学校へ統合しました。

また復旧事業は、損壊し使用できなくなっていたプールの工事は平成25年2月より進められ7月9日落成式が執り行われました。震災後使用でき

なかった屋内運動場についても平成 26 年 3 月に完成し卒業式を行うことができました。

学校名	建物等の状況	備 考
坂元小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・防球ネット災害復旧工事（4 月 8 日強風災害） ・坂元小学校プール改築工事 ・坂元小学校体育館改築工事 	H25 年度復旧工事完了
山下第一小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・山下第一小学校築山改修工事 	築山・滑り台工事

②社会教育・社会体育施設の被害状況及び修復対応

中央公民館南側法面の災害復旧工事完了により、全ての社会教育施設及び社会体育施設の災害復旧工事が完了しました。

町民プール、第二体育館並びに笠野海浜グラウンドについては、現地での再建が不可能であることから平成 25 年 4 月 1 日付けで用途廃止を行いました。

町民プール跡地については、児童・生徒の遊び場確保を目的に、「みんなの広場」として整備しました。

施設名	建物等の状況	備 考
中央公民館	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2 階大ホール天井・照明器具等が落下 ・ 内外壁に亀裂（クラック）損傷 	H24 年度復旧工事完了
中央公民館 （南側法面）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 敷地内南側用地一部法面崩落 	H25 年度復旧工事完了
体育文化センター	<ul style="list-style-type: none"> ・ 屋根ブレースの一部が破損し、館内設置のスピーカーが落下 ・ 西側外部柱頭部 2 箇所、東側外部柱頭部破損 ・ 施設の内外に、亀裂（クラック）損傷 ・ ガラス一部破損 ・ 体育館内床（フロア）浪打（高低差発生） 	H24 年度復旧工事完了 H25. 2. 1 開館
町民プール	<ul style="list-style-type: none"> ・ プール周辺にヒビが入ったため水漏れし地盤が変状 ・ プール外壁及びフェンスが倒壊 ・ H25. 4. 1 廃止条例 	H24 年度解体工事完了

第二体育館	<ul style="list-style-type: none"> ・屋根・柱の骨組みのみ残存。外壁は崩落し屋内には大量のガレキが流入。床面の变形・浮き上がり ・H25. 4. 1 廃止条例 	H24 年度解体工事完了
笠野海浜グラウンド	<ul style="list-style-type: none"> ・バックネット等が流出し、グラウンドとしての機能を果たせない状態 ・H25. 4. 1 廃止条例 	被害が甚大なため、原形を留めていない状態。復興計画に合わせ土地の再利用を検討

③指定文化財の被害状況

茶室及び板倉については、倒壊の恐れがあることから侵入防止柵、倒壊予防柱の設置工事を行いました。大手門については、腐食防止と基礎の根固工事等を行いました。併せて湧水井戸の流末処理を行いました。

大條氏御廟については、民間財団の補助を活用し倒壊墓標の復旧工事を行いました。

文化財名	建物等の状況	備考
茶室・大手門・板倉	茶室の壁の一部が崩落するとともに、大手門土台に亀裂	H24 年復旧調査済み H25 年度に周辺整備工事
養首城跡	神社の灯籠が倒壊	H24 年度復旧工事完了
大條氏御廟	墓標が倒壊	H25 年度に復旧工事完了
八重垣神社	建物が流出	H24 年度指定文化財解除
唐船番所跡	東側法面が崩落。石碑も倒壊	H24 年度復旧工事完了
中島館跡	標柱が倒壊	H24 年復旧工事完了
井戸沢横穴古墳群	標柱が倒壊	H24 年復旧工事完了

V 点検評価に対する学識経験者の意見

○ はじめに

昨年度までと同様、東日本大震災からの復旧・復興に向け、「山元町震災復興計画」（第5次山元町総合計画）に沿って諸課題の解決を最優先に取り組んでいる様子が窺えます。これまでの取り組みが徐々に実を結びつつあり、分野によっては震災前の姿に近い形になっていることが見受けられます。一日も早く落ち着きを取り戻し、「日常」が戻ってくることを願わずにはおれません。

1 教育委員会の活動について

例年通りの開催回数と見受けますが、「山元町小・中学校教育環境整備検討調査」の最終報告書が昨年度末に提出されたこともあり、今年度は震災復興計画に直結する議題は少なくなっているようにも思われます。諸事業の着実な実施・推進が期待される中、その進行を管理する教育委員会の役割はより重要性を増すものと思料します。

2 教育関係経費決算の状況について

昨年度に続き教育費は大きく増額（42.7%）されましたが、主要因は坂元小学校のプール、体育館の建設費であると判断します。今後も、教育予算の確保と執行残をつくらぬよう計画的で有効な執行をお願いします。遠距離通学に伴う通学費補助については、対象者は減ってきてはいるものの最後の一人まで補助の継続をお願いします。

3 学校教育の充実について

(1) 山元町立山下第二小学校の再建に向けて

「山元町小・中学校教育環境整備方針」が昨年度末に策定され、具体的に動き始めた年であったと思います。時間をかけてまとめられた検討委員会報告を受けて策定された方針であり、その方向に沿って着実に事業が進められるべきものと判断します。今後に向けては、山下小学校学区との線引きなど課題もあることから、丁寧な説明と理解を得ながら目標年度での再建を期待します。

(2) 小学校及び中学校各項目評価について

評価票をみると共通して「いじめ不登校」「地域連携」には高い自己評価がされており、力が傾注されているものと評価します。一方、「資質向上」

においては授業研究が実施されているが、その後の検討会は時間の確保や形態等に課題を抱えているように読み取れます。なお、評価全体については、

- ① 様式がPDCAサイクルにどう対応しているのかが分かり難い。
- ② 9つの評価項目については、1～2頁にある「教育基本方針」と結びつくべきものであり、方針をもっと具体的かつ明確に構造化して示す必要がある。
- ③ 目標設定においては、数値化できるものは数値化するなどより明確に達成度が評価できるような設定があってもよい。
- ④ 網羅的で抽象的な表現が多く見られるので、年度ごとに重点項目を設定し点検 評価を行う仕組みにするなど内容を精選することも一案ではないでしょうか。

評価システム全体について、次年度に生きる評価となるよう改善を期待します。

(3) 学校給食の概要について

食の安全・安心の確保には引き続き細心の配慮をお願いしたい。児童生徒の将来にわたる安全の観点から、福島第一原子力発電所の廃炉作業に伴う放射性物質の飛散が問題となっていることから、正確な情報の収集と公表を継続して欲しい。

4 生涯教育の推進について

(1) 生涯学習の充実

乳幼児から高齢者まで幅広い年齢層を対象に多岐にわたり活発な事業展開の状況が窺えます。参加者募集には種々手を尽くしているとは思いますが、参加者が極少数の企画については、その要因の分析をお願いしたい。

学校教育支援の取り組みは、協働教育コーディネーターの協力を得て充実した内容となっていることが、学校評価の「地域連携」の結果から推測できます。

(2) 生涯スポーツの推進

長寿社会にあって「健康寿命」が話題となる昨今、保健福祉課とも連携しスポーツに親しむ機会を設けて欲しい。青少年のスポーツ活動の推進には、顕著な活躍をした町内出身に卒業時に顕彰することがあっても良いのではないか。

(3) 魅力ある地域文化の醸成

青少年の情操を育む企画が今後も実施されるようお願いいたします。「本物」に触れることの重要性は論を待たないと思います。また、「山元町無形文化財復興協議会」の活動を通し、各団体が速やかに通常の活動に戻るよう支援継続をお願いいたします。

(4) 社会教育・社会体育施設の活用

一部施設が未だ制約がある中、社会教育施設、社会体育施設ともに前年度を上回る利用状況にあり、順調に環境改善が図られているものと評価します。町民の利活用に資するよう一層の改善に期待します。

○ むすびに

通常の業務に震災からの復興という困難な業務が加わる中で、全体的に適切に業

務が執行されているものと判断します。

また最近、通学途上や虐待により児童生徒が被害に遭う事件・事故の報道に心が痛

みます。関係機関との連携を図りながら事件・事故の未然防止に格段の配慮をお願い

したい。次代を担う人材を育てるための環境整備が、円滑に推進されるよう教育委員

会ご尽力をお願いいたします。

前宮城県仙台第二高等学校長 庄司 恒一

VI 参考法令

地方教育行政の組織及び運営に関する法律 ～抜粋～

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により

教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第1項の規

定により事務局職員等に委任された事務を含む。)を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

- 2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。